

第4回 徳島市歴史文化基本構想策定委員会 議事録

日 時	平成31年3月29日（金）午前10時～
場 所	幸町会館 302会議室
出席委員	高橋啓（委員長）、須藤茂樹（副委員長）、菅原康夫、藤本宗子、坂口敏司、黒田忠良、長谷川晋理、茨木靖、藤田稔夫（市公園緑地課）、青木英樹（市観光課）
事務局	吉成敏史、建島美穂、勝浦康守、三宅良明、宮城一木、立井佑佳
議題内容 措置事項	<p>(1)文化財保存活用地域計画への移行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化庁からは「歴史文化基本構想は過去のものであり、これからは文化財保存活用地域計画を策定することを積極的に進めてほしい」という要望があった。そのため、来年度から名称を変更して、進める予定。内容も歴文構想とは少し異なるため、期間を1年延ばし、32年度末策定を目指す。 ・実現可能な存続可能な内容を念頭に置いて考えていかなければならない。 ・出た課題に対して期間を決めて具体的に何かをする場合、後々にこれらの評価が必要になるのか？ <ul style="list-style-type: none"> →補助金で事業をするにあたって、それなりの行政効果、事業効果等が必要になる。色々な面で指標効果を出せと言われているので、最終的に事業を進めていく中で評価を課せられるものではあると思う。 ・地域計画を策定後に保存活用事業を実施する際の補助メニューは広がるのか？ <ul style="list-style-type: none"> →歴史文化基本構想策定推進事業は従来の補助メニューとは別枠で補助事業を行っており、それは定額補助である。通常は国と2分の1とか4分の1とかになるが、別のメニューがあるので、それらを活用していきたい。 ・文化財保護法の改正に伴い、現在作成中の県の大綱を基に市町村が計画をたてると明文されているが、県の大綱が決まらないと市町村は計画を立てられないのではないのか。 <ul style="list-style-type: none"> →県の大綱があれば、参考にしなさいという程度で、必ずしも県が先ではない。すり合わせをしながら作成する必要があるとも書かれているので、今後県にも参加していただく予定。 ・地域計画の中に、今まで検討してきた内容をどう落とし込むのか？ <ul style="list-style-type: none"> →内容が重なる部分があるのでそのまま活かせる部分が多い。多少追加の項目があり検討する必要がある。 ・地域計画のイメージが分かるようなものを出してほしい。文化庁の描くものは？ <ul style="list-style-type: none"> →委員会としての設置要綱等の変更もあり、スケジュールとともに次回示したい。

議題内容
措置事項

(2)関連文化財群とストーリーについて

全体

・6つのストーリーの内容として方向性は良いと思う。ただし、個別のストーリーに出てくる関連文化遺産（文化財）群のバランスが、ストーリーによって偏っている、あるいは無い。地域活用計画だからコアになるものは、守るべき文化財で、その守るべき文化財をコアにして周辺の関連文化遺産がある。これらは、指定等で守らなくてもいいけれども、少なくとも意味づけをして記憶として痕跡を残しておく必要がある。その辺のバランスが悪い。テーマごとの文化財と文化遺産の構成を少し考えるとかなり良い方向性になるのではないか。

→テーマを6から8に増加させるなど構成を一部変更。

・文章自体は、コンパクトにまとめられており、とても分かりやすい。

・このそれぞれのストーリーの文章の下に関連する文化財群を記入するのか。

→ストーリーの前の概要部分に、主な関連文化財群として明記している。書き方は、羅列するか表などにするか色々方法はあると思うが、全部を紙面上に乗せるのは難しいので、で代表的なものを写真等で挙げられれば。

・ストーリー自体はすごく良くなった。指定文化財ばかりではなく、未指定のものにも目が向けられているのはすごく良いと思う。このまま進めていいのでは。

・それぞれの項でなぜこのテーマなのかというまとめたものが欲しい。何が重要なのか、こういったものがあるからこれを選んだ、などの内容を。

→それぞれのストーリーごとにまとめを追記。

・風景や美術工芸品といった文化財については触れる必要がないのか？

→多少含めているが、圧倒的に量が少ないので各項目での記載を検討する。

ストーリー1

・地名は旧地名でなくてもいいのではないか。

→八万村、津田村を八万町、津田町に訂正。

・青石は特産物として取り上げられているが産地的なことも触れてはどうか？

・青石については、保存すべき眉山に採石場、近世には眉山の北麓に石切り場がある。これらは、将来的に史跡として取り組めていけるようにしなければならない。

→「藩政時代に南佐古の大谷で…」を追記。

・ルイスハンミョウが抜けているというのは、どうなのかなと感じた。徳島市の自然系を語る上では、ルイスハンミョウは欠かせないものではある。また、吉野川の河口付近も欠かすことができないのではないか。河口付近の葦原は、指定分類等にかかっていたと思うので、非常に面白い要素になると思う。

→「河口に形成された干潟や葦原…干潟の上をルイスハンミョウが…」を追記。

議題内容
措置事項

ストーリー2

・2020東京オリンピックのエンブレムには、日本の色として藍が選ばれている。そういった内容も取り上げてはどうか？

→「阿波藍の藍色は…」を追記。

ストーリー3

・関寛斎についての記載がないので加えてみては？

→「徳島藩医に招かれ…」を追記。

・天狗久と繋げて書いてほしい。箱回しの活動とはまた違う点がある。現在でも、日本で一番頭を作っている人が多いだろうし、農村舞台も全国で1番数が多い。それに浄瑠璃を行っている座も多いというので日本一だと謳っている。

→「人形頭制作を…」を追記。

・大きい河川は取り上げているが、周辺環境という意味でいうと徳島県の文化を作ってきた土台、バックグラウンドとして自然環境はあると思うので、水環境とか水路はたくさんあると思うが今一つ水都を活かし切れていないように思う。

→「吉野川の支流である鮎喰川下流域は…」を追記。

ストーリー4

・「重層するカミとホトケの…」の”重層する”がわかりにくいのでは？

→「重層する」を削除。

・無形文化財をもう少し挙げてもいいのではないだろうか？

→「宅宮神社の神踊り…」を追記。

・8月の阿波おどりも、初日に興源寺の蜂須賀家墓所の前で奉納踊りを行ってから阿波おどりが開催されている。記載しては？

→「そして、徳島市の夏を彩る…」を追記。

・お遍路の所では、お接待文化について触れてもいいと思う。文章の中には、具体的に徳島に関係する札所寺社もいくつかあるので入れ込んだ方がいい。

→「四国八十八箇所霊場の…」、「おせったい文化が根付き…」を追記。

ストーリー5

・「鉄筋コンクリート造連続鋼曲弦ワーレントラス」ではイメージが湧きにくい。

→「鉄筋コンクリート造の橋脚に連続曲弦鋼ワーレントラス」に変更。

・旧吉野川橋に90歳との表示があるが、85歳のまちがいでないか？

→昭和3年（1925）に訂正。

議題内容
措置事項

ストーリー5

・“阿波藍の集積地として”と書かれているが、それを証明するような、担保になるような指定文化財はあるのか。新町川界隈の登録有形文化財は出てくるけども、痕跡がないと弱い。これから評価をして指定が出てくれば文化的景観などで選定していくことができるだろうが弱い。また、JRのプラットホームとか操車場回転台とかをストーリーに入れていますが、将来的に保全活用できる担保と言えるのかどうか。実質、無くなっていくものではないか。残すための取り組みをするのであれば書けばいいとは思いますが、そういった内容が5のテーマは特に端々に見受けられる。

→ストーリーの中に過去の歴史的事象として書き込むことによって、地域の歴史文化を詳しくできるのであれば、書き込んでいきたい。ただ、この中の全部が保存活用できるかという無理ではあるが、この後の章立ての中で、地域の保存活動の方針とか方策、こういった区域を保存活用していくのか、色分けができると思う。色分けした中で積極的に提携できるものは、行政としても保存活用を図っていくということを書き込めるのではないかと考えている。

ストーリー6

・水都徳島と掲げているぐらいなので、ストーリーの中に吉野川以外の河川ももっと取り上げたほうがいい。

→「網状に河川が流れる地形に立地する…」を追記。

・ワシントンヤシの記載があるが、ワシントンヤシもどきでワシントンヤシではない可能性がある。

→「ワシントンヤシモドキ」に訂正。

・シマヘビ・ニホントカゲ・アカテガニとあるが、これらはいわゆる普通種なので、どういう区分で選んだのか、特に徳島ではなくてもいいのではと感じた。行数の割に勿体ない部分に思う。徳島県は、比較的暖かい土地柄にある。暖かい土地柄が感じられるような物を選んではどうか。黄花亜麻を取り上げているのは、すごく面白い。原産地がインドで、特に珍しいというわけではないが、レトロな栽培植物で、レトロ感がある。滝の焼餅の亭主さんいわく、「モラエスさんが持ってこられた」などの謂れがある。真偽は定かではないが話として面白いのではないかと。

→「さらに本田は…」に訂正。

・城山の原生林については良いのだが、徳島城跡の石垣についてはどうなのか？徳島城跡保存活用計画との絡みで身動きのとれないようなことを書くと進めづらくなる。

→保存活用計画では城山の原生林についてまで議論が進んでいないが、おそらく来年度には議題に上がる。どちらに重点を置くという話ではないが、徳島城保存活用計画検討委員の意見と徳島市の文化財保護審議会委員の意見とに整合性を持たせるべきで、この上で議論を進めていくべきだとは思っている。できる限り調整して記載したいと思っている。

<p>議題内容 措置事項</p>	<p>ストーリー7</p> <ul style="list-style-type: none">・インバウンド等含めて、外国人が來徳した時を考えて、〇〇や暮らし、食や味などを入れてはどうか。遊山箱なども。徳島は、素材がいいという特徴があると思う。・食材のおもしろさというのも徳島市はあると思う。西日本では当たり前のことかもしれないが、東の人間からすると「ぼうぜ」は驚きでしかない。徳島の有名な食材はたくさんある。レンコン、サツマイモ、吉野川の手巻海苔や、日本で生産量1番である藍など、そういった食材などを使うことはどうだろうか。 <p>→ストーリー7を追加。</p> <p>ストーリー8</p> <ul style="list-style-type: none">・テーマ設定に載ってこない文化財がある。阿波国府と関連出土品は正に国の重要文化財で、全国オンリーワンでどこにも出てこない。やはり、書くことによって特別な地域として保存しなければいけない。木簡が埋まっている所もわかっている。ただ、そこで工事をするとした場合のためにも、市の中で保存するような政策を考えておかないといけない。これは、大変な問題である。国府は、縄文と矢野の銅鐸と阿波国府の木簡の縄文から古代までの3セットが揃う場所で、そんな場所は全国でもそうそうないからこそ、後々の保全を考えなければならない。 <p>→ストーリー8を追加。</p>
----------------------	--